

令和元年度 運営方針並びに事業計画

運営方針

平成 31 年 4 月 1 日に新元号の令和が発表され、4 月 30 日に平成時代は終わりました。5 月 1 日に、徳仁皇太子が新天皇に即位され、令和時代が新しく始動しました。振り返れば、大正 15 年、昭和 64 年、平成 31 年、新元号の 4 つの時代を生き抜かれている会員の方々に敬意と賛辞を贈ります。明治から数えて 151 年を経た今日、わが国は、デフレからの脱出に懸命ですが、景気は、輸出と生産の一部に弱さがあるため、回復には至っていません。10 月の 10% の消費増税は、景気が悪化している現状では困難のようですが、私たちは、消費税の支払いについて、軽減税率・カード支払い・ポイント還元などに対して、賢く対応する必要があります。

国家予算は、約 101 兆円に増額されました。医療、介護、年金等の社会保障費は約 34 兆円で、予算の 3 割を占めています。税収は約 62 兆円なので、23 兆円の赤字国債を発行して補填します。年金だけでは生活できない高齢者 800 万人は、現在もなお就労しています。厚生労働省は、雇用保険・労災保険等の給付金を約 2,000 万人に対して、過少に支払い、その総額は 567 億円です。その回収費に 200 億円は必要とされています。私たち退公連は、年金給付に際して、厚生労働省が計算ミスを出さないことを切望します。

今年度の年金改定額は、物価が(プラス 1.0%)。賃金が(プラス 0.6%)でした。法律に従い賃金指標で算出します。(賃金 0.6%) から、(今年度マクロ経済スライド 0.2%) と新ルールのカリオーバー制度 (0.3%) を差し引きしますので、プラス 0.1% になります。年金は、昨年より 0.1% プラスされた金額になります。平成 30 年度に遡って給付されます。年金へ抑制政策はまだまだ続きます。

福岡県退職公務員連盟の課題は会員の減少です。この減少の流れを止め、会員の維持・拡充が進むよう各支部と連携を強化していきたいと思えます。

具体的目標

- 1 誰もが安心できる社会保障制度の充実をめざす。
- 2 退公連の会員として相互理解を深める。
- 3 地域、支部の活動に積極的に参加し、社会貢献活動ができるよう人間としての絆を深める。
- 4 組織の拡充・活性化に努める。

この 4 点を基本にして、各支部と連携しながら活動を推進し、ゆるぎない組織を作るよう努めたいと思えます。また、現役世代の公務員に対しても関わりを深めていく必要があります。

また女性部は、役員やブ
ロック長、専門部の協力を得
ながら、役員総会や総会、年
度末反省会での懇親会を担当
しています。懇親会での料理
の計画や準備、司会進行をし
ています。懇親会は、会員相
互の交流を深めるよい機会で
す。懇親会が盛り上がり、会
員相互の絆が強まることを
願っています。

八幡支部の女性会員は約
200 名いますが、新会員
はここ数年、毎年 3 名以下で、
80 歳以上の会員が約 70% 強と
超高齢化が進んでいます。
八幡支部女性部が取り組ん
でいる活動の一つに、地域貢
献活動があります。支部の行
事には参加できませんが、こ
れまでの経験を生かして、地
域の中で読み聞かせや登下校
時の安全指導、一人暮らしの
方の見守り、学校評議員、民
生委員、自治区会の役員等、
幅広く活動しています。この
活動は、会員の生きがいや健
康づくりとしても役立つとい
います。

八幡
支部

超高齢化に負けず
地域貢献活動

前女性部長

河野

延枝



令和元年度 新役員紹介

今年度、支部長、事務局長、組織部長、女性部長の中で就任した21名の皆さんをご紹介します。福岡県退職公務員連盟を支える新たな風に期待が高まります。



新支部長紹介



早良区支部長
高橋 章

◎会員と共に

令和元年5月支部総会で支部長に就任しました。早良区支部も会員数が減少傾向にあります。その対策が緊急の課題です。退公連の長い歴史を理解し、現在の状況等を語りながら会員増に努力していきたいと思えます。

令和元年度の「要望事項」も決まり、5項目一つひとつが私たち高齢者の熱望する中身です。会員の福祉向上や健康づくり等を語り合う機会も必要ではないでしょうか。

早良区支部も80数名の会員ですが、増員に努めるにあたり、班長の若返り、班編成等の改革も必要でしょう。山積する課題も多くありますが役員、班長、会員と共助の精神で団結していきたいと願っています。さらなるご理解とご協力をお願いします。



八幡支部長
上山 元一

◎心の豊かさを大切に

私は前会長のようにならぬように退公連の業務に精通しているわけではありません。今までお世話になった先輩方に、少しでも恩返しができたらとの思いで引き受けました。

元号は平成から令和になり、社会情勢も大きく変化。「人生 百歳時代」とも言われる世になります。政府は働きたい高齢者に対し、70歳までの雇用確保策が固まったことを受け、雇用期間の長期化を踏まえた年金制度を考えています。

この結果「退職後も働くので、退公連に加入しない」と考える方が増え、新規入会者が減っています。今まで一緒に仕事をしてきた仲間との「心の繋がり」を大切に、人としての「心の豊かさ」を発揮していただきたいと思います。



嘉穂山田支部長
田中 義春

◎支部長になって

本年度から、嘉穂山田地区の支部長になった田中義春です。よろしくお願いたします。

我が家庭におきましては、生活は以前に比べ苦しくなっています。年金も退職金もだんだん減っています。

これからの老後が心配です。この国が好景気というならば、我が家とは関係ありません。本支部におきましては、会員の死亡や高齢のため施設に入ったりして会員数が激減しております。それをどう解決すればよいのか。会員も高齢化し活動的とは言えません。

若い人が入会しないのはなぜだろうか。組織の力をあまり信用しなくなったからでしょうか。退職者と私たちの間に年齢の差があつて、面識がないのも原因の一つと考えられます。

それはともかく、会員の確保に全力をあげることに早く求められると思ひ、その努力をしなくてはと決心しています。



八女支部長
吉岡 幸夫

◎新たな峰に向かつて

新元号が「令和」になり、我が八女支部の4名の役員全員が60代です。新たな峰を登るのにふさわしい陣容です。八女支部も高齢化、会員の減少が進んでいます。組織運営の活性化、会員同士の結びつきを強める課題の多さを考えると身の引き締まる思いがいたします。

課題解決のために、財政面からの見直しを図りたいと思ひます。また、会員同士が退公連への所属感、生き甲斐としての満足感を味わい、活動できるようにしたいと思ひます。そのために、年金や暮らしと健康のための研修会を開く、組織の活動状況が分かり、会員の生き甲斐情報が載った「支部会報」の発行に努めたいと思ひます。先輩諸氏が育てた退公連です。私も引き継ぎます。



三潴大川支部長
田中 勲

◎支部の取り組み

筑後川の畔に位置する三潴大川支部は、会員149名(23班)の小さな支部です。

主な行事は、班長会、総会、一日旅行、研修会(年金が健康に関すること)、女性部会です。

課題は新規加入者対策で、まず異動発表の新間を見て、組織部が退職者名簿(住所・電話番号を載せたもの)を作成します。それを第1回役員会で誰が勧誘するか担当者を話し合います。それでも今年の新規加入者はたまたま4名です。

11月の全国退公連陳情団に合わせ「社会保険制度に関する要望書」を10月中旬に地元国会議員の嶋山二郎氏へ提出しています。そのため、9月に役員・班長会で年金を含む「要望書」の実現をめざして、毎年署名活動をしています。



田川郡支部長
古谷 芳男

◎田川郡支部連帯の強化を願って

私は、平成29、30年度に事務局の担当になり、田川郡支部活動の運営に関わらせていただきました。おかげで田川郡支部の状況や福岡県退職公務員連盟や日本退職公務員連盟の活動について十分とはいえませんが、把握させていただくことができました。

どの支部も会員減少という大きな課題を抱えているとお聞きしますが、田川郡支部も例外ではありません。田川郡では、各自治体において小・中学校の統廃合が進められており、ここ数年で学校数が大きく減少されることが予想されています。それに伴い、管理職をはじめ、一人配置の教職員の数が当然減少していきます。また田川郡では、郡外在住の教職員が多く、郡内在住の退職者が少ない状況があります。会員の高齢化や新会員の減少で組織の拡充は厳しい状況ですが、各役員さんや会員の方々のご支援をいただきながら、連帯強化を目標に努めてまいります。

新事務局長紹介



朝倉支部 事務局長
坂本 忠徳

◎班長さんの負担軽減を

班長さんから「新聞配り、連絡等が身体的に無理になり、迷惑をかけている」という話を受けました。

会の存続にとって、班長さんの負担を軽減することが急務ではないかと痛感しました。



八幡支部 事務局長
千々和 俊一

◎活動の活性化と連携

八幡支部の事務局長を担当するようになって3年目になります。会員の高齢化が進むなか、会の活動を活性化するため、役員、各ブロック、専門部が連携し、みんなで力を合わせて取り組んでいきたいと思えます。

柳川・みやま支部 事務局長
吉原 守生

◎支部活性化のために

若輩者ですが事務局長を仰せつかりました。本支部は会員数200名以上の大所帯ですが、高齢化が進み会員数も年々減少しております。微力ではありますが、本支部活性化のため、日々努力していく所存です。



遠賀中間支部 事務局長
高山 彰二

◎退公連雑感

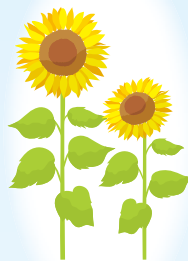
定年退職後、退公連に入会して5年です。先輩の先生方のお世話になり、たまに開かれる懇親会が楽しいです。その上、元教員仲間との連帯感が心の支えになります。今後は自分が会員の皆さんのお役に立ちたいです。



小郡三井支部 事務局長
林田 一徳

◎つながりを求めて

小郡三井支部では、総会、親睦会、年2回の支部たより発行等の情報交流、物販に取り組んでいます。本支部の課題は、会員の減少とさらなる活動の充実です。つながりを求めて、微力ですが頑張っていきたいと思えます。



新女性部長紹介



中央区支部 女性部長
高良 恵子

◎お役に立つ女性部長に

会員になって10年になります。皆様の元気なお姿に励まされ、豊かな日々を送るために、定例会には毎回参加するように心がけてきました。これからは、皆様のお役に立つ女性部長でありたいと思えます。



嘉穂山田支部 女性部長
柴田 和美

◎令和の出発

現在、女性部77名の会員です。年1回の女性部班長会には、80歳前後の班長が必死の思いで出席されています。後任がいない状況です。その中で自信を持って勤務でき、魅力ある活動ができるかが不安です。

新組織部長紹介



嘉穂山田支部 組織部長
江藤 辰巳

◎何とかしなければ...

私が所属する班や支部ともご逝去・退会が続ぎ、一方新規加入者獲得もうまくいかず、まさに絶滅危惧状態です。薄くなる現職とのつながりを深めるため、現職の会合に出かけて説明するところ等を考えております。



大牟田支部 組織部長
廣瀬 正伸

◎微力ながら

この度、縁あって本職を引き継ぐことになりました。この組織が役員をはじめ皆様方の地道な努力で成り立っていることが分かりました。微力ながら頑張ります。



八女支部 組織部長
内藤 忠寿

◎組織の活性化を

八女支部でも高齢化と新規会員の加入が課題です。公務員として共に汗した先輩方の話に耳を傾けることで対話が生まれそうです。対話が会員全体に広がり、組織の活性化につながるよう取り組んでいきたいと思えます。



三潴大川支部 組織部長
今村 通博

◎組織の維持

本支部の会員数は約150名で、これを維持できているのは諸先輩方の尽力によるものです。今後組織の維持を図るため課題解決が必要です。そのため会員との連携を深め目的達成に努力していきたいと思えます。



遠賀中間支部 女性部長
一松 トキエ

◎笑顔あふれる懇親会

5月25日に総会と懇親会を兼ね、第1回の集会を行いました。女性部が懇親会を受け持ち、総会の後は、みんなで和やかに歓談をしたりゲームをし、楽しいひとときを過ごし一安心しています。



八女支部 女性部長
藤田 和代

◎よろしくお願ひします

「令和元年」新しい年に、この役を拝命し、身の引き締まる思いです。本会で「活躍されている諸先輩方にご指導を賜りながらこの大役を果たしてまいりたいと思っております。ご指導を賜りたく思います。



三潴大川支部 女性部長
廣松 ヨシエ

◎研修の継続と充実

三潴大川支部の活動方針に従って、研修の継続と充実に向けていきたいと思えます。今まで講話・研修旅行と年2回の研修を行ってきました。この研修を楽しく魅力あるものにし、会員相互の絆を深めたいと思えます。



浮羽支部 女性部長
大江 万里子

◎「いつだって今、最高！」

60代のゴールの「ロックン」(69)「ロール」の今年ご対面したポストに武者震いしております。「いつだって今、最高！」をモットーに「人生わっしょい、山もわっしょい、谷もわっしょい」を思いこおります。



東区支部

組織の確立を期して

支部長 中嶋 英機

東区支部は、会員70名弱でここ数年やや増加しましたが、人口比で考えるとまだまだ努力の余地があります。

本支部の特徴と言えば、女性部が元気なところです。特に女性部が企画している秋の1日研修(バスハイク)は年毎にいろいろな工夫がなされ楽しい行事です。支部の会員減に歯止めができたのも女性部の力に負うところが大きいと思います。

今の課題はいかにして会員増を図るかということです。教員出身者しかも管理職経験者が大多数というのでは「退公連」の本来の主旨に反すると思います。「生き甲斐の感じられる活動」「社会に役立つ活動」「魅力を感じられる活動」等、多くの人が入会して活動したいと思う組織の確立が急がれます。

課題解決に向け、一歩ずつ前進していきたいと思えます。

鞍手支部

喜和通心の鞍手支部



支部長 加留部 謹一

公務員の勤めを果たした喜びをもって和し、心を通じ合わせ、生活と日本の過現未を考え、元気を活動の支柱にしている鞍手支部です。

当面の活動目標は、次の4項目であります。

①高齢化が進む支部内に平成31年度退職者が10余名あり、全国組織としての退公連の存在意義を

共通認識として、会員加入促進に取り組み、組織体、共同体の機能を強化していくこと。

②「支部だより」を発行して、退公連情報を会員に周知し、退公連会員としての喜びの高揚と公的活動の意欲の向上を図ること。

③「そつめん・ひやむぎ」販売を通して、活動目標を共有し、組織内の通じ合いを高め、潤いのある活動体にしていくこと。

④慶弔にまごころを尽くし、会員としての存在感、所属感、連帯感を高め、生きて、生かされ、生きていく力を醸成すること。

柳川・みやま支部

仲間づくりで組織の拡充を



支部長 徳永 俊一郎

平成30年4月より支部長に就任して1年、新会員の加入を期待しましたが残念な結果になり、力不足を痛感しています。(36名中5名)。

本年度は今までの未加入者も対象に、しっかりと退公連の目的を説明するとともに、4つの心「思いやりの心・いたわりの心・助け合

いの心・支え合いの心」を大切に絆を深めていくことが必要です。そのために本年度は、会員相互の親睦を図るため、日帰りの研修旅行を計画しています。また、女性部を中心に新しい体験活動や学びの場を設け、会員が楽しく参加できるように工夫して、新会員の獲得に繋げたいと思っています。

「平成」から「令和」に元号も変わり、新たな気持ちで会員の皆様が「退公連」に入って良かったと実感できるように、役員・班長と力を合わせて頑張っていく所存です。

浮羽支部

支部の課題解決へ前向きに取り組む



事務局長 生野 忠生

本支部は、会員116名、15班(各小学校区)に構成されている。取り組みとして、4月に各町代表者会8名にて総会についての原案審議を行う。

特に新規退職者の校区別プリントを配布し、過年度退職者を含め情報交換を行っている。5月中旬は総会を行い、役員・各校区班長30名によって年間計画および運動方針を決定。7月と3月の役員会では、4名が組織拡大を中心に協議し、進捗状況の把握に努めている。

高齢化に伴う死亡、新規加入者減、役員や各班長の高齢化(平均年齢78歳越)など課題も多岐にわたるが、社会貢献活動の一翼を担い、各校区のコミュニケーションセンターの役員をはじめ、書道・合唱・生け花・テニス・サッカー・空手など、ボランティアとして積極的に活躍している会員も多い。

課題解決には程遠いであるが、会員・役員一同、「一歩前進」。前向きに組織拡大をはじめ諸課題に取り組んでいきたい。

城南区支部

ともに分かち合う 学ぶ楽しさ

女性部長 清成 節子



城南区支部の会員は現在57名、女性21名ですが、高齢化による体調不良などで活動できるメンバーが少ないのが悩みです。

女性部としてはこれまで秋の半日研修を区内の友泉亭公園で実施してきました。回廊式池泉と紅葉を見て、風情をいただき、懐かしい昔を語り合い、唱歌を歌いました。心と楽しい集いでしたが、2年前からは研修部と女性部の合同で1日研修だけを進めています。

六本松の福岡市科学館では九州最大のプラネタリウムを鑑賞したり、参加型の展示やショータイムを見ました。また昨年の福岡城址のパーチャルツアーでは、一人ひとりがタブレットを持って、映像に驚いたり、ガイドの説明を聞いてはとても感心させられました。

今年は、3月に全面改築された福岡市美術館の見学を計画しています。地下鉄に乗って身近な場所を見て、おいしいお昼を楽しむことをモットーに頑張っています。